

今週のコメント

- 手足口病の定点当たり報告数は0.80で、過去5年平均値(0.55)を上回っています。年齢階級では、1歳の9例(27.3%)が、最も多くなっています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.37で、ピーク時(第32週 0.88)に比べ少なくなっていますが、平成12年から平成19年までの同時期と比較すると、平成18年(0.49)に次いで、多くなっています。

今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

- RSウイルス感染症の、第34週の定点当たり報告数は0.07(3例)で、過去4年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

発生状況

全数報告の感染症

- 二類・結核 2例(喀痰塗抹陽性 1例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 234例(喀痰塗抹陽性 75例, 無症状病原体保有者 20例)】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	1.80	74
	手足口病	0.80	33
	ヘルパンギーナ	0.46	19
	咽頭結膜熱	0.37	15
	突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

病原体情報

ありません。

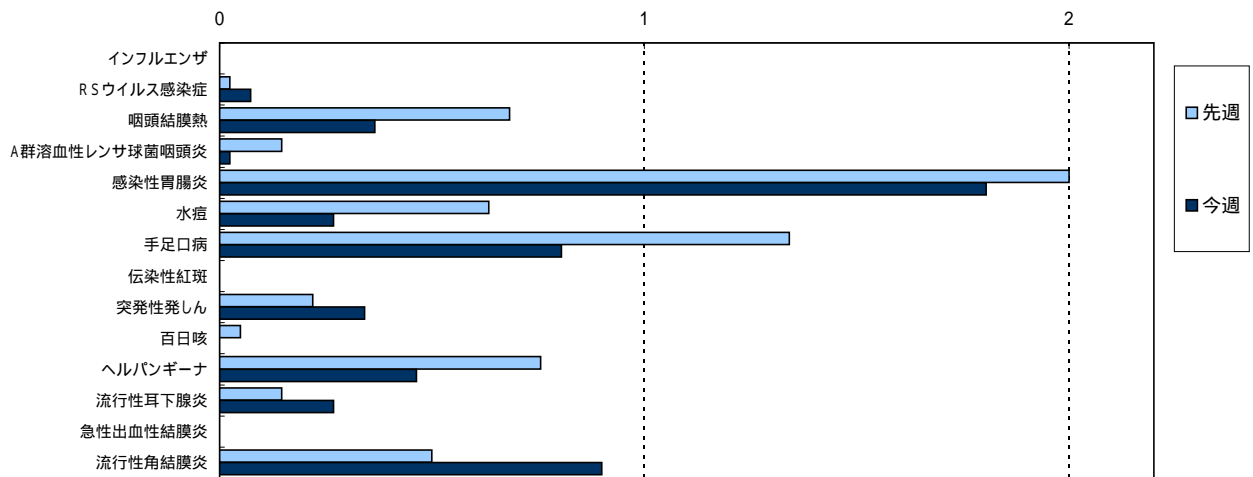
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

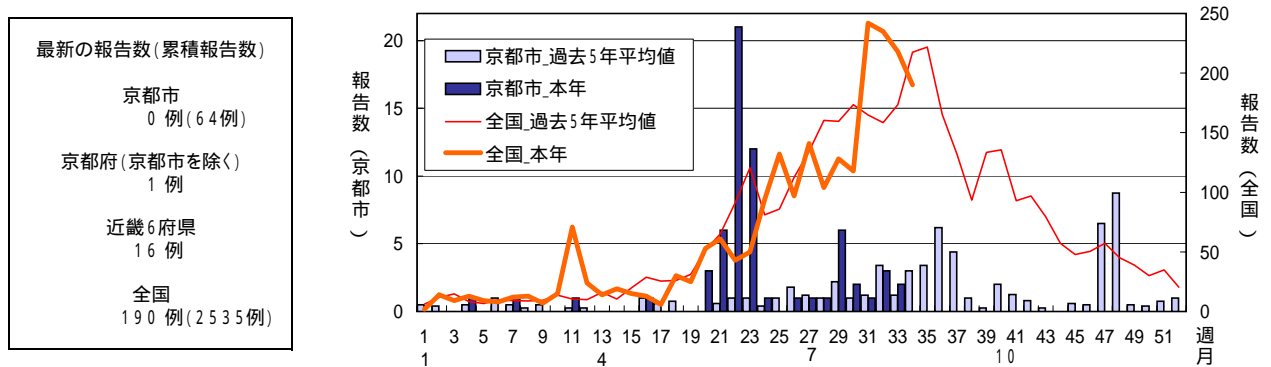
(注) 京都市のデータは、平成20年8月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

発生状況の概況グラフ

1 今週(第34週)と先週(第33週)の定点当たり報告数の比較

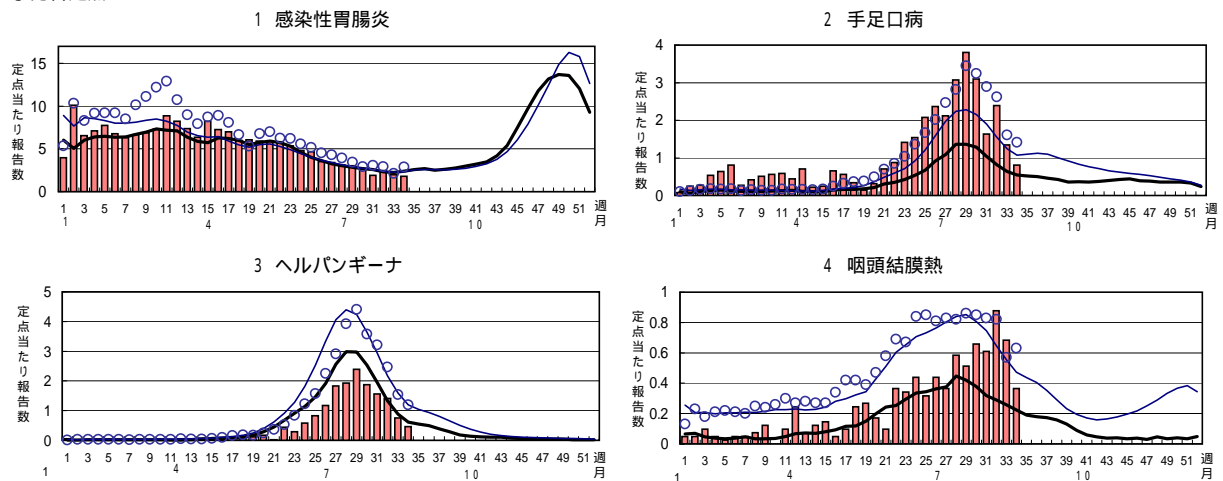


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

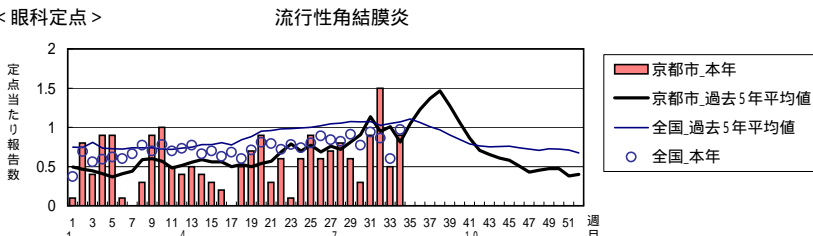


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第34週)のトピックス: <RSウイルス感染症>

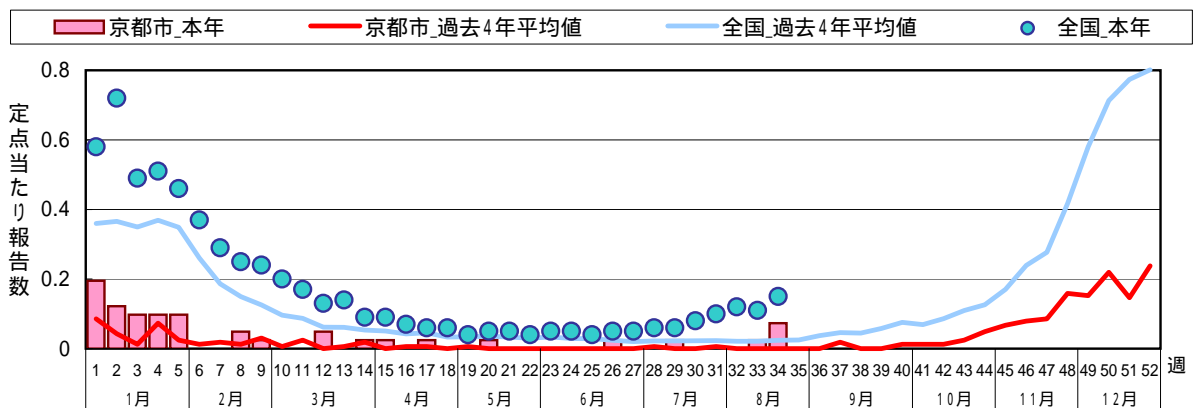
RSウイルス感染症の、第34週の定点当たり報告数は0.07(3例)で、過去4年平均値を上回っています。

RSウイルス感染症は、日本では、主に乳幼児の間で、冬季(11月~1月)に報告数が増加します。

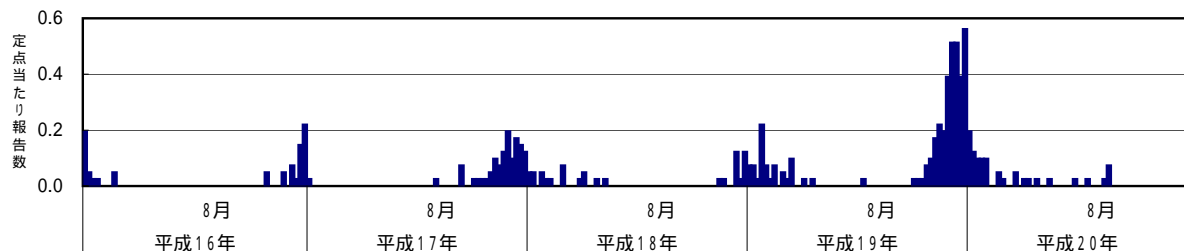
本市においても、平成16年以降、冬季の報告が主でしたが、本年については、散発的に毎月報告がなされており、全国では、第26週以降、報告数の増加傾向がみられます。

本市の第34週までの累積報告数は40例であり、これを年齢階級別にみると、1歳以下が全体の92.5%を占めています。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週~第34週)



本市の定点当たり報告数 推移(平成16年~平成20年第34週)



本市の年齢階級別報告数の内訳(平成20年第1週~第34週 累積)

